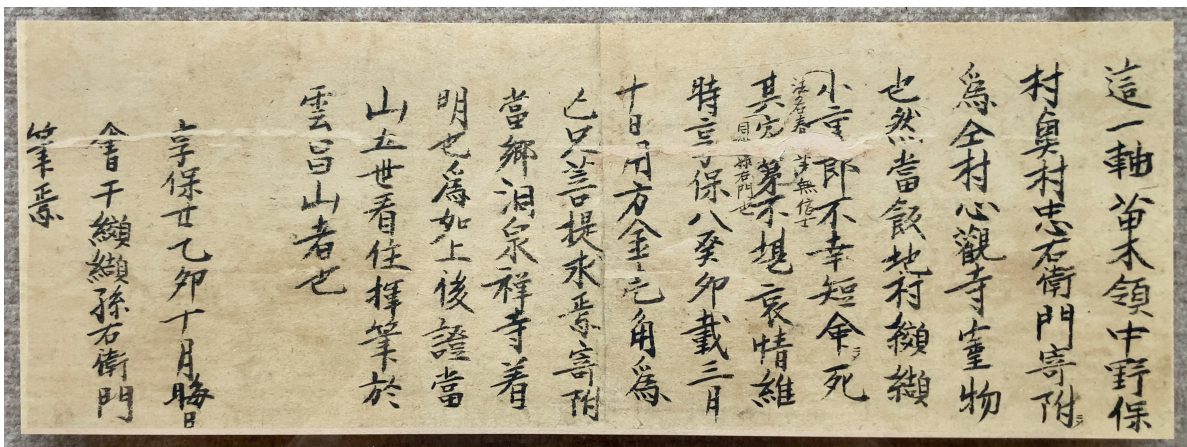


自法寺涅槃図由緒 解題



【原文】

這一軸苗木領中野保
 村奥村忠右衛門寄附
 為全村心觀寺宝物
 也然當飯地村瀨瀨
 小重郎不幸短命死
法名春
無信士
 其弟不堪哀情維
 特立保八癸卯載三月
 十日用方金壹角為
 乙只菩提水壹寄附
 當鄉洞泉禪寺着
 明也為如上後證當
 山五世看住揮筆於
 雲昌山者也
 享保廿乙卯十月晦日
 全日干瀨瀨孫右衛門
 筆焉

【読み下し】

這の一軸は苗木領中野保村、奥村忠右衛門の寄附にして、同村※心觀寺の宝物也。然れども當飯地村、瀨瀨小重郎（法名春○○無信士）不幸短命にして死す。其の実弟（同○孫右門也）、哀情堪えず、維の時、享保八癸卯（みずのとう、一七二三）年三月十日、方金壹角を用い、右ぎ只だ菩提と為して焉れを求め、當郷※洞泉禪寺に寄附し着くこと明らか也。上の如く後の證と為し、當山五世看住、※雲昌山に於いて揮筆する者也。

享保廿乙卯（きのとう一七三五）十月晦日
 全日干瀨瀨孫右衛門、焉に筆す。

【用語解説】

- ※心觀寺 中野方に存した雲林寺末寺。明治廃仏毀釈により廃寺。のち同地に真宗大谷派靈仙寺が明治一三年に建立さる。
- ※洞泉禪寺 雲林寺末寺。八世大同巨益代の明治三年廃寺。
- ※雲昌山 雲松山の間違いか？ 洞泉寺の山号。五世は養山祖育。